麻酔科研修プログラム

浜松労災病院 Ver. 03.07.2024

【研修指導責任者】 浦岡　雅博

初期・後期研修を通じた基本的な研修プログラムです。

【研修目標】

全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、伝達麻酔を受ける患者の周術期管理を通して、麻酔科研修に必要な基本的知識・技術を習得します。

ＡＢＣ（気道確保、呼吸管理、循環管理）とその基礎となる生理学を理解し、手術室、救急外来、一般病棟、集中治療室などでの救急医療、プライマリケアに必要な知識と技術を習得します。

術前診察によるリスク評価や説明・同意（インフォームド コンセント)、術後診察を通して患者・家族の状況を把握し、患者を全人的視野からとらえる姿勢を形成します。

【研修指導体制】

浜松労災病院は、日本麻酔科学会認定の麻酔科研修施設（麻酔科認定病院）です。

麻酔科のスタッフが指導医としてマンツーマンで指導します。研修医は麻酔担当医の一員として指導医とともに、術前・術後診察および手術患者の全身管理を通して症例ごとのリスクの把握と麻酔方針について学習します。１ヶ月あたり約 25 症例の予定・緊急手術を経験します。

浜松労災病院麻酔科は、浜松医科大学麻酔科医局から派遣された医師で運営されています。麻酔科医局入局後の専門医養成（後期研修・卒後３年目～）プログラムの詳細については、浜松医科大学麻酔・蘇生学教室のホームページからご参照ください。

1. 研修内容： 麻酔科研修期間中の居場所は、麻酔科医師室・手術室です。

午前８時 15 分より：麻酔科医師室 術後診察・当日の担当症例の把握・術前評価

午前８時 30 - 45 分より： 麻酔管理の準備

（１） 麻酔科診療業務の理解・把握と積極的な業務参加

（２） 術前診察と説明同意（インフォームド コンセント）

（３） 患者のリスク評価と麻酔計画

（４） 全身麻酔（吸入麻酔・完全静脈麻酔)、硬膜外麻酔、脊椎麻酔の準備

（５） 周術期管理

（６） 術後診察

【研修到達目標】

1. 手術を患者中心のチームによる周術期医療の一環と捕らえ、その中での麻酔科医役割を理解する。
2. 術前診察と説明・同意を通して、患者の全身状態を把握しリスク評価を適切に行える。
3. 症例に応じた麻酔計画の立案ができる。
4. 麻酔管理に必要な器具・薬剤の準備が適切に行える。
5. 全身麻酔薬、局所麻酔薬、麻薬、筋弛緩薬の基本的薬理作用、投与方法を理解する。
6. 生命維持に必要な生理機能（呼吸・循環・代謝）の全身麻酔や手術ストレスに対する反応を理解する。
7. 全身麻酔中の輸液管理・輸血管理の基本を理解する。
8. 麻酔器や各種モニターの基本構造を理解し、適切に使用できる。
9. 各種モニターおよび血液ガス分析の意味を理解し、結果を評価できる。
10. 以下の手技が安全かつ確実に実施できる。
    1) 末梢静脈ライン・橈骨動脈ラインの確保
    2) マスクとバッグによる気道確保および用手人工換気
    3) 基本的な気管挿管 （喉頭鏡、マックグラス）
    4) 胃管の挿入
11. 挿管困難症例への対処を理解する（トラキライト、ファイバー挿管 等)。
12. エコーガイド下 中心静脈穿刺に必要な知識を習得する（症例があれば右内頚静脈を基本に指導医と共に留置を行う)。
13. 腰部硬膜外麻酔・脊椎麻酔の生理機能への影響を理解する。

【研修期間の麻酔科関連の教科書】

最新の教科書が手術室の麻酔科医師室に常備されているので購入の必要はありません。

基本的な教科書： 麻酔科レジデントマニュアル（第 4 版)、ミラー麻酔科学（第 6 版）
麻酔科プラクティスシリーズ

【技術の習得と患者の安全】

気管挿管や橈骨動脈ライン確保等の手技は麻酔科研修で習得目標とする技術ですが、患者の安全が第一です。動揺歯、挿管困難、ハイリスクの症例などでは無理せず、上級医の指導に従ってください。